

総評

全国 27 都道府県、77 校から 547 件の応募をいただきました。

たいへん多くの応募をいただきありがとうございます。これを、ただ多いと喜ぶだけでなく、毎年のこれだけの蓄積を教育や地域活動に活かすなどして、社会に還元することをしっかりやっていく責任があることを改めて感じています。

量だけでなく、質の向上という点でも目覚ましいものがありました。

市場調査を試みたり、実際に試作品をつくってみたりといった応募もいくつもありました。その結果、応募用紙の内容は 1 枚にはとうてい収まらず、多くが 2 枚以上に渡って書かれており、10 ページ以上になる力作も複数ありました（但し分量の多さは審査ポイントではありません）。

また、ビジネスという点を意識して、収支計画、売上目標、利益目標などを試算したものが増えたのも今年度の特長でした（これもアイディアの実現性の一つの指標にはなりますが、利益が多く出そうだから高く評価するというわけではありません）。

充実の背後にはご指導いただいている高等学校の先生方の御尽力もあると思い感謝申し上げます。また、これだけの拡がりでご応募いただいていることから、特定の先生方の御尽力にとどまらず、総合的学習、探究学習、SDG s 学習の深化を感じさせていただきました。

敢えて、少し改善して欲しい点を指摘すると、現在のサービス等で類似のものがいないかの調査が不足しているところです。類似のものがあったても良いのです。むしろそういったものがあれば、現実市場性があることが証明されます。まったく同じでは困りますが、既存のものとの差別化して、ここが違うということをうまく表現できれば、提案をブラッシュアップすることができるでしょう。

今回のプレゼン大会を通じて、このコンテストは、高校生らしく純粋に世の中の課題、困りごとに向き合ってもらう部分を大切にしているという意味を再確認できました。

困りごとの解決という点で、今年の提案ではより普遍的な課題に対するものがありました。ごみの問題やフードロス等の様々な「もったいない」問題の解決提案は従前から応募がありましたが、より洗練された分析や深掘りした内容の提案が見られましたし、不動産の適正価格やフェアトレードなど大きなテーマに取り組んでいるものもありました。

また、優しさがキーワードだったと感じています。障害とまでは定義しにくいグレーゾーンへの配慮や、お年寄りが着やすい服のちょっとした工夫など、身近な方への小さな気遣いに優しさが感じられ、コンテスト全体に良い空気を吹き込んでくれたと感じます。普遍的な大きなテーマを考える場合も、抽象的で理論的な思考から進むのではなく、身近で大切

な人の困りごとを解決したいということから探究していく道もありえます。極論すると、一人のためということを徹底的に考えることが実は普遍的な課題解決に向かう、一つの近道なのだと言えるかもしれないと考えました。

高校生らしい純粋な正義感や優しさで、世の中の課題を解決することを考えてもらいたいという本コンテストの趣旨に相応しいたくさんの応募をいただけたことを、心より感謝いたします。ありがとうございました。

授賞理由

最優秀 岐阜県立岐南工業高校

「工業高校生が作った小学生向けロボコンキット」

小学生向けロボコンキットを制作し、それを大事そうに抱えてしっかりした質疑応答をしてくれました。現在、流通しているものの半額で制作したロボコンキットはたしかに良いものと思われましたが、市販のものとの差額でビジネスしますという提案では最優秀に選出されなかったと思います。試作を完成させたところで、自分たちが何をしたかったのかを問い直し、安価な小学生向けロボコンキットを提供することで多くのお子さんたちがロボコンし参入しやすくなり、より多くの子どもたちがモノづくりの喜びに触れることができるようになるを考え、小学生向けロボコン大会を企画実行する会社を立ち上げるという提案に練り直したところが高く評価されました。この転換は素晴らしいと思います。

現状よりも安価なロボコン大会を運営することで、子どもたちの笑顔を増やし、ボランティア参加する中高生の学びの機会の提供し、社会全体としてモノづくりの魅力を普及するという三方よしの課題解決を提案いただきました。

つい先ごろ、実際にロボコン教室をしたいという小学校があり、3月に100個のキットを造ることになるのがとても大変だけれど、頑張りますと話されていました。

鹿児島純心女子高等学校

「つなスタ〜地域と未来を繋げる自習室〜」

町中に中高生向けの安価な自習室を始める構想です。このビジネス自体すでに存在します。お隣の宮崎県でも中高生向けのコワーキングスペースの無料開放が大々的に行われています。特別な点は、運営に当たり地元企業と連携し、地元企業の紹介・広告を部屋の中に散りばめる、それにより、上級学校進学後に地元に戻る若者を増やすという提案でした。

行政と連携したコワーキングスペースの無料開放では、地元企業との連携も行われていると思われますが、地域企業との連携を前面に出して提案しているところ、地方創生の課題に対する強い想いが審査員の共感呼び、優秀賞の選出になりました。

新潟産業大学附属高等学校

「石鹼で世界を変えます ありがとうを贈る新しい形」

フィリピンの女性たちの生活向上のために現地の自然由来の石鹼を作り、日本の意識が高く、肌に悩みを抱えている女性たちに提供しようという企画です。こうした構想自体数多く存在しますが、それらから学びつつ、パイナップルの葉の繊維から織られるピーニャというフィリピンの伝統布を使用した巾着に梱包する、日本の消費者から感想や感謝の手紙を送ることでフィリピンの人たちのモチベーションにつなげるといった追加的アイデアがたくさん盛り込まれていました。ご自身もフィリピンにルーツの一部を持ち、現地を訪れた経験もあるなかで構想したということでしたが、生成 AI の時代ですが、長文の企画書は図案も丁寧に手書きで書き込まれ、プレゼンのビデオや質疑応答はどれもしっかりした自分の言葉で語られていることがよくわかりました。

発言を求められるたびに、皆さんフェアトレードの商品を購入しようと言ってくださいました。因みに、フェアトレードの市場は日本では昨年激増しましたが、それでもたったの 200 億円程度、「倫理的な消費」は先進国の中でもっとも低い日本なので、こうした高校生がたくさん育ってくると良いと感じました。

岐阜協立大学ビジネスアイデアコンテスト

審査委員長 竹内治彦